

羅針盤

平成28年度第25号（通算276号）
平成29年2月17日（金）発行
岡山県総合教育センター
Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

子供たちに「主体的・対話的で深い学び」を③

これまで、アクティブ・ラーニングによる授業改善の三つの視点として、「主体的な学び」(第21号)と「対話的な学び」(第23号)を紹介してきました。シリーズ最終回は、「深い学び」について紹介します。

深い学び

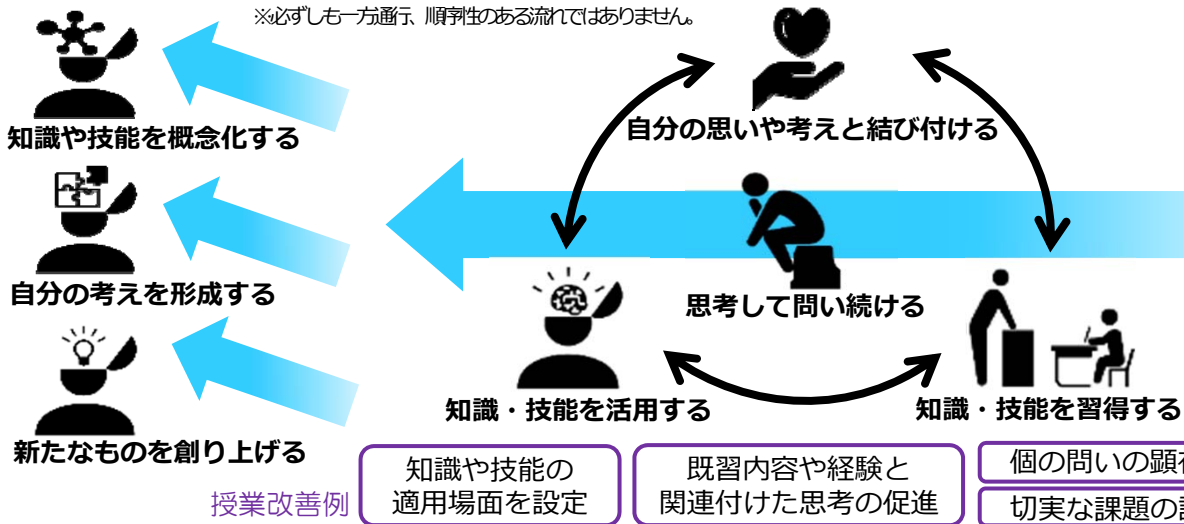
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
中央教育審議会答申から ※下線：岡山県総合教育センター

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

「深い学び」を実現する子どもの姿(イメージ) (独)教員研修センター次世代型教育推進センター作成資料から

※必ずしも一方通行、順序性のある流れではありません。

各教科等固有の見方・考え方が働く学習プロセスの構想



知識・技能を習得する

見通しを持った学習過程の中で、主体的に知識・技能を習得する。
(高等学校 古典の例)



自分の思いや考えと結び付ける

登場人物に思いを寄せながら、自分で読み取ったことを表現し、考えを深める。
(小学校 国語の例)



ポイント 毎時間の授業の中で、三つの視点(「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」)をすべて実現することが求められているわけではありません。単元や題材のまとまりの中で、

- ◆「主体的に学習を見直し振り返る場面」や「グループなどで対話する場面」をどこに設定するか **重要!**
- ◆学びの深まりをつくり出すために、「児童生徒が考える場面と教員が教える場面」をどう組み立てるか **重要!**

といった視点をもって、授業づくりを行うことが大切です。

県総合教育センターHPに「アクティブ・ラーニング」コーナーを新設しました!!
2/19の県総合教育センター教育研究発表大会で配付する

- ◆H28年度版リーフレット
- ◆研究協力校等の実践事例等がダウンロードできます。

【県センターHP】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/alpt/index.html>

次回の発行は、3月3日（金）の予定です。 (担当・教科教育部)
【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>